

『著作権の時代』の学会ジャーナル

情報発信・流通技術の飛躍的な発展と世界的な拡大は、勢い「著作権」のあり方を大きく変えようとしています。特に日本はこれまでヨーロッパ諸国・アメリカと比べて「著作権」についての法的な規定・規制が曖昧で、創作者側・利用者側共に権利関係が不明瞭でした。インターネットによるグローバルな情報流通の可能性拡大は、本質的な「情報の自由流通性」を高めています。デジタル技術の発展は学問・学術分野で「アーカイブ」という新たな領域を創出しました。そこに「コピー大国」中国の問題が大きく被さっています。

こういった事情から日本の学術オンラインジャーナルをJ-STAGEでリードしてきた(独)科学技術振興機構(JST)が著作権に関する調査とリーガルチェックを行い、報告書と共に「ひな型」が作成されました。ここで紹介します。

【表1】著作権規定分析結果～調査項目～

	著作権法	帰属先			
		学会(41)	著作者(8)	双方,その他(3)	
著作者 人格権	公表権	18条	4	0	0
	氏名表示権	19条	4	0	0
	同一性保持権	20条	4	0	0
	複製権	21条	16	5	3
著作者 財産権	上演権・演奏権	22条	3	0	0
	上映権	22条の2	3	0	0
	公衆送信権等	23条の3	16	4	2
	口述権	24条	3	0	0
	展示権	25条	3	0	0
	頒布権	26条	3	0	0
	譲渡権	26条	4	0	0
	貸与権	26条	3	0	0
	翻訳権・翻案権等	27条	12	0	1
	二次的著作物の利用に関する権利	28条	6	0	2
	利用に関する許諾		17	0	0
	その他 の規定	出所の明示	48条	7	0
著作者の著作物利用			12	3	1
第三者への委託			5	1	2
著作者の責任			12	2	0
二重投稿			5	1	1
誓約書提出		2	1	0	

※：4分の1(25%)以上の学会で記載があった項目

(JST 調査報告)

【表2】著作権規定の分析結果～独自出版の場合～

分析軸	結果概要	課題/ひな型への示唆
著作権の帰属	全学会において学会帰属としている。	学会が著作権を管理する場合、適切な管理ができる規定が必要。
著作者人格権の取り扱い	19学会中3学会で不行使特約の記載があることがわかった。	学会と著作者(投稿者)の間で紛争になり得るため、不行使特約を記載することが望ましい。
著作財産権の範囲	記載がある学会では、複写、複製、翻訳等に係る排他的な権利を学会が有するという記載が比較的多い。	学会が著作権を管理する場合、適切な管理ができる規定が必要。
オープンアクセスへの対応	学会により分かれる。	ひな型では、学会のスタンスにより選択できることが望ましい。
著作者による利用	学会により非常に幅がある記載となっている。例えば所属機関リポジトリについては、明示的に認めると定めている学会が19学会中7学会あった。	ひな型では、学会のスタンスにより選択できることが望ましい。
著作者の責任	半数を超える学会において記載があり、多くは二重投稿、第三者の権利を侵害しないことおよび原稿がオリジナルであることを定めている。	ひな型では、学会のスタンスにより選択できることが望ましい。
準拠法・管轄裁判所	明確に日本国著作権法に準拠する旨を記載していたのは19学会中3学会のみ。	学会の負担を考え、日本法に基づくことの明示が望ましい。

※著作者人格権: 著作者の氏名を表示することを求める権利や、改変を禁止する権利
※著作財産権: 著作物を複製する権利など

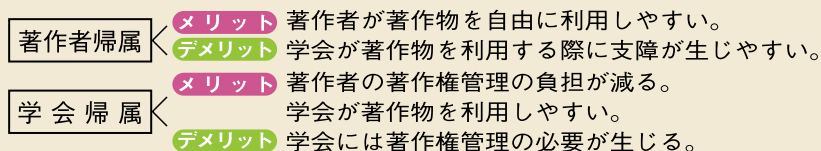
(JST 調査報告)

■著作権とは？

中西印刷(株)社内に事務局を置く学会からは、しばしば「著作権上どうなのか?」「著作権との関係は?」と質問をいただきます。実際のところ事務局段階で明確な回答を学会として確立しているところはありません。集英社新書「著作権の世紀」(福井健策著)にはこうあります。『著作権は、創造の果実といえる一定の情報(=著作物)について、創作した人に一定期間与えられる独占的な権利』『情報には、文字だけではなく音楽、映像、写真、ソフトウェアなどが幅広く含まれ』『著作権は、広く「情報の独占を許す制度』。分かったようで分かりません。先のJSTの調査は和文誌対象に平成20年度、英文誌対象に平成21年度それぞれ実施され、その調査の項目でも【表1】のように多岐に渡っています。

■著作権の帰属先は？

調査の結果では、やはり学会の独自出版の場合と商業出版社からの出版の場合で著作権の規定が異なるようです。【表2】をご参照下さい。当然ここでいう帰属先としての「学会」と「著作者」では、それぞれメリット・デメリットを指摘しています。【図1】これらの調査とリーガルチェックの結果、JSTは報告書を発表し著作権規定と著作権譲渡書のひな型を提案しました。



【図1】著作権帰属先のメリット・デメリット (JST 調査報告)

STEP1. 学協会刊行誌の掲載論文の著作権は？

学協会に帰属

著者および第三者が、その論文を掲載された雑誌以外の形で利用するためには、学協会の許諾が必要。

*コピーを配布する、論文集に再録する、など

著者に帰属

著者が、その論文を掲載された雑誌以外の形で利用するのは自由。第三者(学協会含む)が、利用するには著者の許諾が必要。

学協会誌発行を出版社に委託している場合や、NII-ELS・J-STAGE・メディカルオンライン等の電子ジャーナルプラットフォームを利用している場合は、契約内容をご確認ください。

STEP2. 著作者本人のインターネットでの公開を認めるか？

認める

- 著作者個人のWebページ
- 著作者が属する機関等のWebページ(機関リポジトリも含む)
- 研究資金助成機関のWebページ

認めない

STEP3. 著作者本人がインターネットで公開することができる形態は？

- 冊子の当該論文部分または抜刷(いずれも紙媒体)をスキャンしたもの*
- NII-ELSやJ-STAGEなどで公開されている電子ジャーナルの当該論文部分の電子ファイルをコピーしたもの*
- 著者が保有する著者最終稿(掲載が決定した原稿のうち査読を経た段階のもの)
- 著者が保有する掲載決定原稿のうち、査読前の段階の原稿

*SCPJデータベースではこの2つを「出版社版」と定義しています。

STEP4. 上記の方針をどのような方法で示すか？

- 学協会の約款
- 投稿規程
- 著者と学会間の契約書・合意書

【図2】機関リポジトリにおける著作権ポリシー

※1

◎報告書概要

http://info.jstage.jst.go.jp/data/society/meeting/090806/5chosha_hokokusho.pdf

◎発表資料

<http://info.jstage.jst.go.jp/data/society/meeting/090806/4chosakukenchosa.pdf>

◎日高真子氏説明資料 <http://dx.doi.org/10.1241/johokanri.53.19>

またJSTの「情報管理」サイトでは平成22年10月から著作権に関する連載「教えて！著作権」を掲載しています。併せてご参照下さい。<http://johokanri.jp/>

※2

国立大学図書館協会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/>
学協会著作権ポリシーデータベース
<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/>

■あくまでサンプル・ひな型です

以上のJSTによる調査と報告は、報告書にも明記されていますが、あくまでサンプルでありひな型です。学会としての実際の適用や運用は、それぞれの学会の環境や独自性によって異なり、また適用の際の時期や状況によっても変わります。最終的なご判断は適宜法律の専門家とご相談下さい。以上のレポートはJST主催のJ-STAGEセミナーにおける研究基盤情報部日高真子氏の発表と資料から抜粋しています。JSTの著作権に関する詳しい報告やひな型は各サイト(※1)から閲覧下さい。

■国立大学図書館協会もポリシーを公表

Webサイトでの学術論文発表が常態化しつつある中で、国立大学図書館協会も増加する【機関リポジトリ】(平成23年2月時点国立大学だけで76の機関リポジトリが構築)に対応する「著作権ポリシー」を策定し平成23年2月9日付けで公表しました。このポリシーは協会のSociety Copyright Policies in Japan = SCPJプロジェクトの調査に基づいて策定されました。【図2】をご参照下さい。詳しくは各サイト(※2)をご覧ください。



J-STAGE 投稿審査システムの受付を再開

現在世界的に広く普及している2種類のASP(Application Service Provider)システムを一部カスタマイズのうえ、J-STAGE3投稿審査システムとして導入されます。投稿審査システムの利用申込み受付は一旦停止されていましたが、2011年6月8日付けJ-STAGEより受付を再開すると、通知されました。

J-STAGE3 投稿審査提供システム

■ Editorial Manager タイプ
(日本代理店：株式会社アトラス)

または

■ ScholarOne Manuscripts タイプ
(日本代理店：株式会社杏林舎)



※初期設定、基本機能利用、サポート費用はJSTが負担。
それ以外のオプション機能は料金学会負担で利用可能。

■応募条件

- ・現在J-STAGEに安定掲載している論文誌であること。
- ・年間一定数(50程度目安)以上の査読論文の投稿があること。

■応募方法

- ・下記URLから必要書類をダウンロードし熟読していただき、必要事項の記入・捺印のうえ郵送にてお申し込み下さい。

<http://info.jstage.jst.go.jp/society/submission/index.html>

- ・ダウンロードした書類を解凍するにはパスワードが必要です。パスワードは下記JST担当係にお問い合わせください。

【郵送先】

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3
サイエンスプラザ

JST知識基盤情報部 電子ジャーナル担当
投稿審査システム係

TEL: 03-5214-8837

E-mail: j3socie@jstage.jst.go.jp

■締切日 平成23年8月31日(水)消印有効

知っていると便利ですー J-STAGE の【My J-STAGE】機能

J-STAGE では、閲覧者のために My J-STAGE と呼ばれるマイページ機能があります。メールアドレスを登録するだけで、お気に入り資料や検索式の登録、登録した資料に新たな号が発刊された際のアラートメール受信など、多彩な機能が利用できます。登録は J-STAGE トップページ (<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>) から可能です。



※ J-STAGE(現 J-STAGE2)は、平成 24(2012)年春までに機能を大幅に充実させた新システム「J-STAGE3」としてリニューアルされます。それに伴い、閲覧画面(ユーザインタフェース)も大きく変わる予定です。開発状況は J-STAGE に随時公開されていますので、ご覧ください。(<http://info.jstage.jst.go.jp/society/development/index.html>)

J-STAGE 3 の最新情報は今後本誌で随時ご紹介していきます。

J-STAGE センターの委託先再び株式会社アトラスに

昨年度競争入札で、一旦東芝ソリューション株式会社に委託先が変更されました J-STAGE センターが本年度競争入札の結果、2011 年 4 月 1 日から再び株式会社アトラスに変更になりました。右記本年度センターの連絡先です。メールアドレスの変更はありません。

株式会社アトラス
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-39-5 水天宮ビル 2F
TEL : 03-5642-9300 / FAX : 03-5642-9301
E-mail: center@jstage.jst.go.jp (変更なし)
●変更・移転に関するお問い合わせ先
科学技術振興機構(JST) 知識基盤情報部電子ジャーナル担当
〒108-0023 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザビル
TEL : 03-5214-8837 / FAX : 03-5214-8470
E-mail: contact@jstage.jst.go.jp

HOW to 学会

私製承認振替用紙が出来るまで

学会の総会や学術集会・講習会などで参加者が参加費用を納入するのに利用するのがゆうちょ銀行の「払込取扱票」。インターネットでの Web クレジット決済も増えつつありますが、使用手数料が無料なのと、なによりも払込内訳の控えが加入者に届く事で払込情報が確実に把握できることから、学会大会運営の定番グッズです。ざっと私製承認払込取扱票の出来るまでをご紹介します。

1. 口座開設

大抵の場合、大会の開催は学会本部ではなくその年の主管校です。法人格のない任意の団体扱いですので口座の開設にはかなりの必要書類と時間を要します。早い目にお近くの郵便局へご相談下さい。

2. 「通信欄」の決定

「通信欄」を有効に利用できるのが私製承認のメリットです。一旦承認された後の「通信欄」変更はできませんので慎重に。(変更の場合は新規申請)

3. 版下の作成

口座番号・通信欄を入れた版下を印刷会社で規定に則して作成します。

この際【赤】は払込料金加入者負担でコード「02」、【青】は払込料金払込人負担でコード「00」です。

4. 申請

「郵便振替払込書用紙私製承認申請書」に添付書類を付して申請します。添付書類は、①トンボ付完成版下、表/裏各 2 部 ②出来上がり見本(以前に印刷会社が承認を受けて製作した他の出来上が

り見本) 5 枚【紙質上質紙 70 kg・ミシン目・印刷色のチェック】

申請先は、各所轄ブロックの「貯金事務センター / 振替課計画係」です。都道府県別ではありません。例えば、口座開設が京都なら申請は大阪、山梨県甲府市なら横浜です。また申請書の書名は貯金事務センターにより異なりますので、ご確認ください。

5. 仮承認番号の交付

貯金事務センターより仮の承認番号が交付されます。版下や出来上がりに修正を求められる場合もあります。

6. 本印刷

承認番号を入れて完成版を印刷製作します。

7. 本申請

出来上がり完成版を 5 部貯金事務センターに送ります。

8. 本承認

承認書が加入者に送られます。これ以後使用することが可能です。

中西印刷学会フォーラムの

新システムをご紹介します

オンライン大会登録受付システムが完成いたしました。e-naf+ は、一般的な大会参加・演題発表の登録受付機能に比べて、大会事務局支援の為に充実した各種管理機能を有する汎用システムです。是非導入をご検討ください。

- 参加登録と演題登録が1つのシステムで完結
- オンライン会員情報管理システム e-naf とのリンク
- オンライン決済機能 (クレジットカード)
- 低コスト
- 様々なカスタマイズで使いやすく
- 充実の管理機能
- 安心サポート
- 強固なセキュリティ

オンライン大会登録受付システム
イーナフプラス



不満でした。オンライン大会登録

こんなところまで回りだすのは、

登録作業 (入力→出力→送信) が煩わしい。

受付通知が来ないので、間違いなく受理されたか不安。

参加登録と演題登録が別システムだと、どちらか登録し忘れてしまう。

会員なのに名前や住所を何度も登録するのは面倒だ。

オンラインで決済できない。

参加登録と演題登録が別システムだと、発表者が参加登録しないまま会場に来てしまうことがある。

登録時のサポート体制に不安。

とにかく、時間と努力がかかる。

抄録情報のデータ化作業が大変。

抄録の長さや共著者数等、投稿規定にあった登録情報かどうかのチェックが困難。

個人情報やクレジットカード情報の漏洩が心配。

会員/非会員の確認作業が大変。

専用システムは時間とコストがかさむ。汎用システムではユーザビリティに不安。

収集した情報の管理、入金処理や採択処理が煩雑。

登録状況をリアルタイムに確認できない。

編 ◆ 集 ◆ 後 ◆ 記

3 /11 東日本大震災と津波は東北地方に甚大な被害を与えただけでなく、日本の学会活動にも大きな影響を及ぼしました。3月は学会の年次大会シーズンでもあり、東京で開催予定でした第28回日本医学会総会が中止になったほか、横浜開催だった日本解剖学会・日本生理学会合同大会も中止、誌上開催となりました。今夏首都圏で予定されている学会行事も「計画停電」や海外演者招致の難しさから、開催可否の検討を迫られています。

私達が関わる学会の先生方にも被災された方が多数おられます。しかし電話もメールも通じない中、必死に論文改訂を行い、ようやくの思いで「今だからこそ、何とか論文を世に発表したい」と万策尽くして論文を届けられる先生方がいます。本当に頭が下がる思いです。

本情報誌もメンバーが入れ替わり、第二期編集委員会による編集となりました。第一期から継続してリーダーを務める者として、一歩踏み込んだ誌面をご提供したいのですが、今の問題意識は「二重投稿」です。さて具体化できるテーマか… (チームリーダー/井上)

ま ずは、このたびの東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。この数ヶ月、地震による甚大な被害が報道され続け、私たちの生活を支える物理的基盤のはかなさをつくづく考えさせられました。一方、WEBでの情報流通の早さ、津波で破損した家族写真をデジタル復元といった話題に、改めて情報通信技術の進歩を有り難く感じました。中西印刷では現在、会員管理・大会受付などWEB化への過渡期ですが、私もWEBへの苦手意識を克服していきたいと思っています。今号より学術情報誌チームに参加させていただくことになりました。今後ともよろしくお祈りいたします。(学会部/宇野)

こ の Vol. 8 より、学術情報誌チームに参加いたします。印刷会社の社員なのに印刷を取り巻く諸事情(オンラインジャーナル周辺?)にも疎いまま、これまで来てしまいました。これをきっかけに、新しい知識・情報をどんどん吸収していきたいと思っています。よろしくお祈りいたします。(学会部/糸魚川)

今 号より担当させていただくことになりました。皆様に充実した情報をお届けできるようにガンバリたいと思います! さて、今の時代はスマートフォンを利用して就職活動(情報収集、説明会や面接の予約など)を行っている学生が増えているそうです。企業側もスマートフォンユーザーを意識したサイト作りなど日々勉強しなければいけませんね。最後に、2011年3月11日に起こりました東日本大震災において、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された皆様、そのご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早く安心して暮らせる日に戻りますことを心よりお祈り申し上げます。(編集校正課/島田)

東 日本大震災で被害を受けられた方々に、慎んでお見舞い申し上げます。また一日も早い復興を心よりお祈りいたします。このたび本情報誌に新規メンバーとして参加することになりました。今号はリーダーをはじめとするチーム内の熱意に圧倒され、あっという間の発行となりました。次号ではもう少し積極的に取り組みたいと思います。一年間よろしくお祈りいたします。(DTP課/小森)

大 阪府立中之島図書館に大阪府下の住宅地図バックナンバーがあった事をふと思い出し、「子供時代の記憶」への好奇心に駆られて行ってきました。モダンな建物の中で3時間ほど時間旅行を楽しんだ後、図書館のすばらしさに感動し、帰宅しても余韻に浸って何もできませんでした……。 (プリプレス課/石川)

誌 面レイアウトを今号より担当させていただく事になりました。普段は先生方の論文を組版し、オンラインジャーナルにアップする仕事为主体なのですが、今回は情報誌なので“文字組み主体”ではない“デザイン重視”の組版にあたふたしてしまいました。もっとセンスが良ければ!と悔しい思いをしながらも楽しい作業でした。皆様に読みやすい紙面になるよう、次号も努力してまいります。(DTP課/青谷)